

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びを通じた学習のあり方について

事業内容

高知西：高知西高等学校の取組について

概要・目的

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、平成 30 年度をイメージして協議する。

P

平成 29 年度の当初計画

1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組

- グローバル教育プログラムの試行
 - ・自ら課題を発見し、解決策を考える探究型学習
 - ・コミュニケーション能力を育てる言語活動の充実
- 英語運用能力の向上
 - ・生きた英語を学ぶ体制づくり ALT (2名→4名)、外国人講師 (1名→2名)
 - ・ICT環境の整備
 - ・ICTの活用 (聞く力、読む力、話す力の育成)
- 国際交流
 - ・海外長期派遣の実施 (留学先との単位互換制度)
 - ・海外留学への支援の充実 (留学 1名→5名)

2 高知西高等学校の取組

取り組み① Agenda N 2017 による学校経営計画の遂行

- 学びの習慣の確立と学力向上
 - ・家庭学習習慣の確立 (1年: 90時間/月、2年: 100時間/月)
 - ・図書貸し出し数 1000冊/年 (1, 2年)
 - ・国公立大学合格者 100名以上
- 特別活動と部活動の充実
 - ・多くの生徒が皆勤となることを目指す
 - ・部活動への参加 (1年: 加入率 90%以上、2年: 継続率 80%以上)
 - ・学校適応 100% (1年) 30日以上の長期欠席者 0
 - ・散歩会完歩率 95%
- グローバル教育の推進
 - ・SGHの取組の推進
 - ・社会貢献活動や自己研鑽活動への取組

取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ

- ・グローバル探究 I・II・IIIの実施
- ・国内リサーチ、海外リサーチの実施
- ・国際シンポジウムの開催
- ・多読・多聴・多話・多書 の推進
- ・英語による探究活動 (GE I、英語課題探究など)
- ・平成 29 年度から 3 年間のまとめを作成

D

平成 29 年度の取組状況

1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組

- グローバル教育プログラムの試行
 - ・H27 年度からスーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業として実施している。詳細は 2 高知西高等学校の取組を参照。
- 英語運用能力の向上
 - ・生きた英語を学ぶ体制づくり ALT は 2 名のまま、外国人講師 2 名配置
 - 外国人講師は、1 年の英語表現 I 単独で授業を担当、今年度から普通科の授業も担当している。
 - ・ICT環境の整備→校内 LAN のルーターのスペックが低かったため、一度にインターネットに接続できる台数が 40 台であったが、6 月にルーターを更新することで、学校が保有する 200 台が同時に接続可能となった。
 - ・ICTの活用 (調べ学習、リサーチペーパー等の執筆、英語教育における聞く力、読む力、話す力の育成
 - 英語の授業では 1 年は多読で M リーダーというサイトで読書の理解度をテストで確認している。週 1 回活用している。その他、1 年生のグローバル探究 I (2 単位) で調べ学習、2 年生のグローバル探究 II (2 単位) で調べ学習とリサーチペーパーの執筆、3 年生のグローバル探究 III (1 単位) で調べ学習とともにリサーチペーパーの執筆に活用。全学年 280 名あるいは、半分に分けて 140 名ずつ交代で使用の工夫をして活用。放課後も資料作成やリサーチペーパーの執筆など、グループや個人で使用している。
- 国際交流
 - ・姉妹校ザフランススクールへの交換留学 1 名 (留学の単位を認定)
 - ・海外留学への支援の充実は実現されていない。→トビタテ留学 JAPAN の活用 (3 年生男子 1 名、スペイン、8 月中旬から 3 週間)

2 高知西高等学校の取組

取り組み① Agenda N 2017 による学校経営計画の遂行

- 学びの習慣の確立と学力向上
 - ・家庭学習時間調査 1年 45.3時間/月 (平日 75分/日、試験期間 163分/日)
 - 2年 48.5時間/月 (平日 72.3分/日、試験期間 198.7分/日)
 - 3年 75.0時間/月 (平日 139.1分/日、試験期間 225.8分/日)
 - ・図書貸し出し数 1年: 691冊 (590)、2年 232冊 (397)、3年 676冊 (496) (12月まで () 内は昨年)
- 特別活動と部活動の充実
 - ・出席状況 (1 学期期末試験、7 月 20 日まで)
 - 1 年 欠席 255(208)、遅刻 119(114)、早退 61(30)、皆勤 156 名(147 名) (55.5%(52.3%))
 - 2 年 欠席 382(408)、遅刻 306(210)、早退 64(50)、皆勤 113 名(129 名) (40.4%(46.6%))
 - 3 年 欠席 540(414)、遅刻 329(328)、早退 61(45)、皆勤 124 名(132 名) (45.1%(47.7%))
 - ・部活動への参加 (1 年: 加入率 93.2%、2 年: 継続率 87.6%以上)
 - ・学校適応 100% (1 年)
- グローバル教育の推進
 - ・取り組み②に記載
 - ・社会貢献活動や自己研鑽活動の呼びかけ

取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ

- 1年: グローバル探究 I
 - 高知県の課題を知る 10回 (4/14~6/28) 19時間 講師 14名招へい
 - 高知県の強みと弱みを分析する 6回 (7/12~9/27) 12時間
 - 県内 7 地域へのフィールドワークと SWOT 分析
 - 高知県の地域創生モデル案作成 10回 (10/4~12/20) 20時間
 - 東京リサーチ (1/26 予定) 30の企業・機関へ訪問し、グループで考察した高知県の「地域創生モデル案」をプレゼンテーション
- 2年: グローバル探究 II
 - グローバル課題の調査 10回 (4/12~6/30) 19時間 講師 9名招へい
 - SDGs を基にした世界の地域課題解決の立案 5回 (7/14~9/22) 10時間
 - 「夏休みアクションプラン」と称した専門機関への聞き取り調査やアンケートなどを実施
 - 課題及び仮説の設定、解決案の提示 大学教授による指導・助言 8名×2回 (6/30、9/15)
 - SDGs を基にした世界の地域課題解決についてのリサーチペーパー (論文) をグループで作成 8回 (10/13~12/15) 16時間
 - リサーチペーパー (論文) の中間発表会 大学教授による指導・助言 8名 (10/27)
- 3年: グローバル探究 III
 - 個人に関心のあるテーマを設定しリサーチペーパー (論文) を作成 全員提出済み 25回 (4/12~12/20) 25時間
- 国際シンポジウム開催 (7/13) 於: オレンジホール
 - 午前の部: 生徒発表 3 (使用言語: 英語) 3 年普通科 1 グループ、英語科 2 グループ
 - 午後の部: 大学教授と生徒による国際シンポジウム テーマ: 「高知県の地域創生、世界の地域課題解決」
 - 【生徒の感想】
 - 同じクラスの友人が堂々と英語で発表した姿や午後のシンポジウムで大人と対等に意見を交わす姿に感銘を受けた。
 - 生徒の発表はすべて英語での発表で、スクリーンも英語だったので、十分に理解することはできなかった。和訳も入れてほしかった。
 - 発表が英語でわからなかったが、日本の森林がなぜ失われているか気になったので調べてみて、理解できた。プレゼンのテクニックで聞き手を引き込むよう工夫されていて勉強になった。
 - 「フェアトレード」について発表したチームが南国市立香南中学校から授業に招待され、プレゼンテーションや交流を図った。(9/6)
- グローバル・リンク・シンガポール 2017 (シンガポール国立大学) で発表 3 年生 4 名
- 香港ルター高校来校 (SGH 事業による香港リサーチ提携校) 7/9~11 教員 2 名、生徒 10 名
- 海外リサーチ 香港リサーチ (9/18~22) 1 年生 4 名
- シンガポールリサーチ (9/18~22) 2 年生 9 名
- 台湾リサーチ (9/26~30) 1 年生 11 名
- タイリサーチ (11/7~11/10) 2 年生 5 名
- * 商談会の机に大人と一緒に参加でき、学びの大きい取組であった。来年度も取り入れたい。
- グローバルマインドなどの生徒の成長を分析するための生徒アンケートを 5 月に実施 (2 月に 2 回目を実施予定)
- オーストラリア語学研修 (7 月 31 日から 17 日間) の参加者 12 名
- 高知西高校 SGH 成果発表会 (2/14 予定)
- 大阪大学主催: 「高校生国際問題を考える日」(2/4)、文科省委託事業: 「SGH 甲子園」(3/24) 参加予定
- 3 年生「英語課題探究」選択者 8 名が、出身中学校で SGH の取組や課題探究の成果を後輩に語る (3 学期予定)

C

A

課題 (○) と今後の取組の方向性 (→)

1 H27 に県教育委員会が示した H29 年度までの本校における取組

- グローバル教育プログラムの試行
 - 県内外における生徒の活動が活発になればなるほど、経費が必要となり、生徒の負担が増加する。
 - 県予算での支援を継続していただけるよう要望していく。国際交流推進会から支援をお願いする。
- 英語運用能力の向上
 - 外国人教員では大学入試に向けた補習等の対応が困難。
 - IB 担当以外の教員配置について検討していく。
 - ICT環境の整備
 - 現状では授業の中で、生徒一人ひとりが英語を話す機会はどうしても少ないので、スカイプ等を活用して、生徒一人ひとりが英語を話す環境づくりを検討する。
- 国際交流
 - 生徒の費用負担を考慮した交流先の開拓
 - SGH による訪問を活用して、延平高級中学(台北)やルター高校(香港)をはじめ、台湾や香港などの新たな人脈ネットワークの拡大を図る。
 - 県内外の大学等が企画する国際交流企画への積極的な参加を呼び掛ける。

2 高知西高等学校の取組

取り組み① Agenda N 2017 による学校経営計画の遂行

- 学びの習慣の確立と学力向上
 - 家庭学習時間は学年ごとに伸びてはいるものの、目標値は達成できていないので、更なる家庭学習習慣の定着を図る。
 - 家庭学習時間を十分に確保できない理由は、部活動での疲れや SNS などのスマートフォンなどへの依存性が高いなど生徒によってさまざまである。このことから、教科指導をはじめ、SGH や進路指導など学校全体の取組の中で、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、クラス担任や教科担任による面談を中心に生徒一人ひとりに支援していく。
 - 休み時間や放課後、休日に登校して自学自習している生徒は多い。そういった時間も含めて調査に回答するように指導しているが、十分に浸透していないので、学年集会や LH の中で、周知する。
 - 学校図書館での貸し出し数は目標値に達していないので、読書習慣の定着を図る。
 - 図書委員によるお勧めの本の紹介など、生徒を主体として取組を推進していく。
 - 読書好きの生徒は書籍を購入している様子も随分見られるので、学校図書館を活用することのメリットを周知する。
 - 部分的に読んだ本は読書したことに入らないと考えている生徒も多いので、アンケート調査での説明をしっかり行う。
- 特別活動と部活動の充実
 - 出席状況については、1 年生は、欠席している生徒はほとんどが 1 日か 2 日で特に問題はない。2, 3 年生はメンタル面などの問題から欠席が多い生徒が数名ずついる。
 - 学年団を中心として、生徒支援委員会を定期的に持ち、情報共有をしながら、スクールカウンセラーと連携して対応している。
- グローバル教育の推進
 - ・取り組み②に記載

取り組み② SGHプログラムの実施と磨きあげ

- 1年: グローバル探究 I
 - 県内リサーチでは、受け入れていただける企業や団体に限りがある。
 - 生徒 40 名の受け入れ可能な場所が少ないので、平成 30 年度には借り上げバスを増すなど、20 名ずつで行動することを考える。
 - 生徒は SWOT 分析を初めて体験するため、進んでいないグループもいくつか存在する。
 - 平成 30 年度は、2 週連続で行うことで慣れてもらいながら、高知県の地域創生についてのテーマ設定へ繋げていく。
 - 東京リサーチでは、3 年間受け入れていただいた企業・機関に取組の評価について、聞き取りを行う。
 - 受け入れ企業や機関の評価に基づいて来年度の実施について、検討する。
- 2年: グローバル探究 II
 - リサーチペーパー作成では、大学教員を 3 回呼び出して指導・助言を得るようにしたが、教授の専門外の分野については、適切な指示をもらえないグループもあった。
 - 平成 30 年度は、大学教員の方に生徒の状況を理解していただくとともに、高校生に慣れた助言者を選出する。
 - 夏休みアクションプランでは、探究テーマが決まらず、夏休み中に実行できなかったグループもあった。また、外部との連絡で、お盆や休暇があり、相手先とうまく連絡がつかない、あるいはこちらへの連絡がつかない等の問題もあった。
 - 平成 30 年度は、グループごとの進捗管理を徹底できるよう、定期的に生徒に進捗状況を報告させるようにする。
 - リサーチペーパー (論文) は 12 月 15 日に全グループが提出できた。論文の書き方の徹底や、理型の探究内容をもつ理系要素の強いものにさせる等、改善すべき点がある。来年度の年間指導計画を再考する。
- 3年: グローバル探究 III
 - 個人リサーチペーパー作成では、1 学期間で作成としたため、探究時間が短かった。
 - 今年度の 3 月は、2 年の臨時時間割を使って取組を早める。
 - 3 年間の探究活動が進路実現に繋がり、40 名が国公立大学の推薦・AO 入試に合格し成果をあげたが、理工系学部では SGH の成果を十分に生かすことができなかった。(例年 30 名)
 - 理型コースの生徒の探究テーマの設定では理数系教員の助言を入れていく。
- 国際シンポジウム
 - オールイングリッシュの発表であったため、生徒や外部の参加者などの聴衆にとって理解が困難であったという声があった。
 - 現 2 年生のグローバル探究 II の内容を発表することになるので、今年度の成果を踏まえたゴールイメージをもった指導を行う。平成 30 年度は、プレゼンテーション資料の要所に日本語で示すことも必要。
- 海外リサーチ
 - 昨年の反省から、事前学習、探究活動に早く取り組ませるため、4 月末までに募集を行った。しかし、人数が少なく 2 次募集を行ったが、それでも昨年より 1 か月早く動くことができた。
 - 平成 30 年度も同じ日程で募集をかける。
 - 9 月の海外リサーチは台風の影響があり、昨年今年も旅程の変更を余儀なくされるリサーチがあった。
 - 平成 30 年度は、10 月中旬~11 月上旬の実施も可能かどうか、検討したい。

平成 29 年度 到達目標

- ・国公立大学合格者 100 名以上などの Agenda N 2017 の目標を達成する。
- ・3 年間の SGH プログラムを完成する。

- H27 *, @Å SGH 1μ* J¶A±X*Ý JØ9

ySGH* JØ9B@#- ¶A±X*Ý JA-C
Ø9@ ¶A &ð± J¶A*GJ|e'xµQdâ &A- Ø9--|eÉÿ'Ýð' J' &-
'Ó)Å* %<@-'¶A&i%* Å- Q J ' & Je'-|c4iTM#sá .*

@ @Å* J¶A±X- L

"ÇSGH V;]ç' %· ¶A- L

¶A±X- X B\4+V#bæui- &|eÉÿC
B@«fON¶A "ÜONbÝ4,+Zy-c4iTM#ÜO&N&[7&]'kONk '¶YTzZ4{ONIA7
t'kšðO-g'x4*f\$ % Ø/c e' & 2 ÇF%'-yUk]uiTM#%AE± %¶A&
-|eÉÿQ#ò J
B"«fON¶AV;]çO-i'ÇF'¶A -ÇF. @Å SGH 1μ-Ð' %· N-¶i#*X'O
Q~ ¶A& ÝÁ Q.

"ÈSGH V;]ç' %· ¶A- LB * 1 «fC

"ÇW-55«N&@± AQI *Ü½-Ýq'z'±* " ¶AÖQ-?Éÿ
^tA* t %A%Ó) H->\$@JáQA J
p†»÷cð K ¶A&.) ½Ç)¶A ~KJ
"ÈW255Voice of America %V#q4*uz±-¶AptgVzQ9÷ ¶A- IQB JÉÿ
ðe Sò)(-Í%Qòp ½Ç)p~&5 K ¶A- IQ# ?áQA J
½Ç*z kt4{&5 K ¶AQB J ~KJ
"ÈW55P]-~A™è- =l- Jfum4jQ) Éÿ
;i{¶Q*) H ÜðÓ*¶A&... Q=@% 'áQA J
@@AQp) ~ !Qòp & J¶SQ: áQA J
"ÈW555yU(4zCyUk]uiTM#- ÅQ9÷ W)Éÿ'Ýð' %· kt4_#bÉÿ
ÜðÓ*¶A&... Q=@% M&« JáQA J
@@AQp) ~ !Qòp & J¶A&5 áQA J
5 Á B Á-hí-BÅ H ÁÍÓ• òp KJG *uO JáQA J

- ï' J¶Aá

"ÇAgenda Å 2017 *GJP

y¶A'±á-1±
¶A^Ö- m
1 « Æ2 ù d50k ¶ 100k 2 ù ¶20k
@« Æ2 ù d80k 2 ù d10k ¶50k
3 « 2 ù d20k ¶100% Æ1 ù ¶3a

"ÈSGH 1μ*GJP

y¶A'±á-1±
SGH14ÇF-i¶i' JÇFB 3 «¶A T 3 «dâ §'C-°üs-U¼Ó)¶Aá' % EFR- B-9 B@
z(«-ÇF-,¼Q '→k0±' J

@ H27 *, @Å SGH 1μ* J¶A±X- L

"ÇSGH V;]ç' %· ¶A- L

yB@«fON¶A "ÜONbÝ4,+Zy-c4iTM#ÜO55 ALT'- TT = . ~-e**GJxµ
N&[7&]'kONk '¶YTzZ4{ONIA7t'kšðO-g'x4*f\$
'Çøi&g'x4*ÉE
'Èb-4%&g'x4*Ý JÜ;Qíç |ç ÜÁQâH * Á 6'n@Q· J
a'kO%zn#Q.
'É;~&g'x4*Ý JÜ;Qíç |ç ÜÁQâH * Á 6'n@Q· J
'kq4muiTM#_Å&%zn#Q.

yB"«fON-¶i#*X'O&- Ý'Á ~-
'Ç ÝÁ ' -]çÁ 3 @55eø¶A&Á 8'.³Ö@@AQ...?
dâ N¶AV;]çOíç»
Sustainable Agriculture b
The Crises in Local and Global Forests and Ideas for Solution b
d:K\ 1RW)DDGH"b
'ÈN-¶i#*X'O-Á155@@A&Á 8'.³Ö¶AQ...?
Á »@aBN* ÖGI~aCâ ÇF-aT¶A ÇF-a
-\$.@a
'ÈN-¶i#*X'O-~
8%-\$.* % ¶A'@@A-ÏA& -

"ÈSGH V;]ç' %· ¶A- LB * 1 «fC

"ÇW-55«N&@± AQI *Ü½-Ýq'z'±* " ¶AÖQ-?Éÿ
p«Ca»kp'í A/QÖ@% & J W -¶AQ-?ÉÿQxµÖ &ð±
W-ÉE 55xµ-³ÖQz'±% ½A-Æ4k&¶A-@Q-> input logBÆ4f4C'ísQ) \$#f5ð
W-Bú»55xµ-³ÖQz'±% V#q4*uz±-gVz M-reader &ðpxkzQ- \$#f5ð
W-ú»55xµ-í&W-Ý J\æZ#x4iTM#Q· xµ &W-Q\$@J
"ÈW255Voice of America %V#q4*uz±-¶AptgVzQ9÷ ¶A- IQB JÉÿ
V#q4*uz@'- ; H gVz9÷*GJW2.Áð±
•VxU^ kt4]4-É±
"ÈW55P]-~A™è- =l- Jfum4jQ) Éÿ
1 « 2 «A] 1 Ú¶V;
V;É~_Å&Ö xkz*2;
"ÈW555yU(4zCyUk]uiTM#- ÅQ9÷ W)Éÿ'Ýð' %· kt4_#bÉÿ
B 1 «C ~*GJPt'xµ&5 ÉÿQW ð±
xµÖ- Éÿ' % W5Éÿiñ- ò

- ï' J¶Aá

"ÇAgenda Å 2017 *GJP

y¶A'±á-1±
1 2 «*# %·p«&³è-^& Ji \$ IBóç»-5pQm% -^¼÷QÐ,K>C
61 Ú-¶A^ 189 a -a 66 aBÆ@ú@²a @úµa Æ-ú-aC ¼#
6@Ú-¶A^ 87 a -a 44 aBÆ@ú@-a @úµ-aC ¼#
¶A^Ö- mp~B4 @µ«è6@ÚÁÖeÝ=&C
1 « Æ2 ù d5k ¶ 85k 2 ù ¶30k
@« Æ2 ù d45k 2 ù d21k ¶34k
3 « 2 ù d18.2k ¶91% Æ1 ù ¶2.5%

"ÈSGH 1μ*GJP

y¶A'±á-1±
"« SGH14ÇFB¶A Tdâ N¶AV;]çOíç»C- Ó* J CEFR- B-9 B@
z(«-ÇF-,¼ 79.2k
B¶A^Ö@ú0±¼#»-/Q%Á' JC

@ H27 *, @Å SGH 1μ* J¶A±X- L

"ÇSGH V;]ç' %· ¶A- L

yB@«fON¶A "ÜONbÝ4,+Zy-c4iTM#ÜO
t|çÉÿ -A-.NbÝ4,|çO&~K% I ^ %* . :(-ÍÑQ) ;Qç
Iá Já ' = ¶A&-Á . JTMè-z(«=& 2f. -Ö-òp'±H)
' W - @ J8'áæ*)l*

€@@A&-øg4sQÄ@J-. ðÓ&) @ øg4s.xµ &· xµÖ.¶A&=@
IA I JIN'D%J

€Ó· T A-A J °pÇ'9á JG)#A!&N IC Qz'±%Á JG
*P J

tNbÝ4 ,|çÜO* J|çx4*Ý~\$@% JÁ¼ W

€NbÝ4,|çÜO-ý »' ¶Aµÿ » ÉÿÖ·Qüòp& J -Q ¶A&|
ç Ó·C3! @A&-|çÖ*Ç KJG *P J

yB"«fON-¶i#*X'O&- Ý'Á ~-
t B Ö 2 *ðÁ-ÇF*GJÁ Q...@J' &) " @ ¶AZ±-ÑÇ ÖK
= 2 «f-øg4sÆ4f4.W - +8*Q N-¶i#*X'OQ Ö A-
)"%) " ¶A&-Á .É i|Q- øÁÇF* -Ö« N" o .'
J

€N¶AV;]çO-i'¶A -ÇF. f«è-N-¶i#*X'OQÄs % 2 «f H
¶A&øg4sÆ4f4Q) G *P J

tix'jX'«Å&." @ Á|N-CI IC ±ÿT H-8 QÇÁ''ó) "
'á-" B K

€ ÝÁ --* yUk]uiTM# - zQ IÈKJ

"ÈSGH V;]ç' %· ¶A- LB * 1 «fC

tW-Éÿ.iù*\$R& J ½Ç)¶Aáfm- @*(-TMè % J .^& %)
= W2Éÿ. Í!&. ÇÁ& J
€2 «f 3 «f&N' KJ¶Aá-fm*1 % 1 «f-;1-Éÿ f\$áfm*#) "%
J (QÖ áaCf±[4*#kxkz = Æá)(- Öáa-eÿQp...ÁÜ¶A
ó YÁÁÜ-P Q ò J

- ï' J¶Aá

"ÇAgenda Å 2017 *GJP

y¶A'±á-1±B¶A^ mC
•¶A^ mèQ1± J
€Úp«n&5 ¼ QE 6 3 Ú&-^*1 %Éi>-V;C¶A-xµ-°& *vää
•@áa-lÁ ;Qp %ú B% P Q ò J
€ è tC#VÍQ9÷ %æk}#bP C;¶A@P QDð J
€xµ&Ct ÁÜ-m!è È J1 J-& 1 «Ç.¼#-ís -È 6-Ú&-^ %
JBt«è- mè 379kC
€@ ~«Ç. ¶SQ-p&m!è) J1 J \$ç'~> ' ' d& J'...
HKJ-& !SQ Ú -pP Q ò J'Á' YÁ) „Ä--páQA